

8月の独り言 「最上川の氾濫から」



日本には三大急流と呼ばれている川があります。熊本県の球磨川、静岡県の富士川、山形県の最上川がそうです。今年は、その最上川流域に大きな被害が発生しました。

8月3日に東北地方に線状降水帯が発生し、山形県や新潟県に大きな被害が発生しました。1時間当たり100mmを超える大雨が最上川に流れ込み、降り始めからの総雨量が300mmを超えた飯豊町では「大雨特別警報」が出され、最上川が氾濫するなど大きな被害が出ました。その時、私の脳裏をかすめたのは、江戸時代の俳人松尾芭蕉が詠んだ「五月雨を あつめて早し 最上川」という俳句でした。この五月は旧暦の5月ですから、現在の西暦の6月から7月にかけての時期になり、ちょうど梅雨（つゆ）の季節です。降り続く梅雨の雨を集めた最上川が、水かさを増しながらゴーゴーと勢いよく流れている様子がこの俳句から伝わってきます。

しかし、近年は線状降水帯が発生し何時間も大雨を降らせ続けるため、半日で洪水が発生するという状況を松尾芭蕉が知ったらびっくりすることでしょう。静岡県も富士川がありますが、河川の氾濫というニュースがほとんどなく、東名高速道路やJR東海道線を利用しているときには河口付近の様子しか見えませんので急流というイメージがありません。しかし、大雨が降った後には、山梨県から最上川に負けない水量と速さで一気に流れてくるのでしょうか。御殿場市には氾濫をする大きな川や大きな水害がないことは、防災上本当に救われていると思いました。

